

## 評 価 委 員 講 評

国 分 義 行

本研究班も3年間の研究の結果極めて見るべき成果をあげたことを高く評価することができる。当初は関連学際領域の研究者によって研究班が編成されて研究が開始されたのであるが、母子相互作用という共通の研究テーマに取り組みながら異質の研究手法、研究結果についてそれなりにお互いに被益するところが大きかったのであるが、最近になって漸く同じ土俵の上で研究を行うことができるようになったことは最大の収穫といってよい。たとえば石井威望班員による研究はエレクトロニクスを自由自在に駆使することによって従来の小児科学的方法論では証明し得なかった行動の分析が可能であることをあざやかに立証し、このことは心理学的研究方法にも新しい分野を開拓する可能性を示した。又このことは室岡一班員らの研究においてもみられることで従来の方法と異なった研究方法によって母親の性格と小児の行動とについてアニメートすることを証明している。他方諏訪戒三班員や山内逸郎班員や瀬川昌也班員らによる研究は従来の小児科学的研究方法を用いての成果であるがこれらの研究方法を通して心理学的、行動科学的乃至は社会科学的研究に対しても従来の方法とは異なった研究方法をとることによって現在各分野でおかれている壁を破って前進することの可能性を提示したことに大きな意味があったことは高く評価してよいと思われる。その他の研究は多くは質問形式による研究であったが、これにはそれなりの研究の意義を見出すことはできるのであるが、その結果の分析にはかなり研究者の主観により左右されることが大きく、この問題を解決するためにはさきにもべたような研究方法が積極的に取り入れられるようにならなければならないと思われるのであるが、その意味においてもこのような研究班の編成されたことに大きな意義のあることが知らされた。何れにしても母子相互作用は母子の存在した当初よりみられた現象であるが、今日学問的視野にたつて研究されなければならない現状は文化の進展にしたがって自然に存在した母子相互作用が破綻する危険に瀕する状態に立ち至ったことを示すものであろう。その結果3年間で得られた研究結果から見ただけでも母子相互作用という現象は想像以上に重大な意義を有するものであり、人間形成の成熟の過程において果している役割は極めて大きいものであることを証明されたといって決して過大な評価ではないと思われる。母子相互作用の欠如した人間生活がいびつな人格を形成することは糸魚川直祐班員のさるを使っての実験、馬場一雄班員の犬を使っての実験等によっても明らかに証明されていると評価することができる。これらの研究によって母子相互作用の重要性が確立されたといってよいと思われるが、これによって今後さらにこの方面の研究が積み重ねられることによって、人間のパーソナリティーの形成に関する問題が一層明快に明らかになっていくものと確信される。